第２８回市民自治推進委員会　産業躍動部会会議録

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和２年１０月６日（火）１８時００分～ |
| 開催場所 | アーニス２階会議室 |
| 出席者 | （部 会 長）川田　弘教（副部会長）吉田　武史（部 会 員）近井　一夫、宮下　裕次、木村　俊子（庁内委員）森元　俊明、大澤　玲裕（事 務 局）大越　智輝、佐々木　健、塚崎　翔太 |
| 欠席者 | （部 会 員）鈴木　高士、小川　昌宏 |
| 議題 | 正副部会長の選任及び今後の取組内容について |

【正副部会長の選任について】

・川田委員が部会長を、吉田委員が副部会長を引き続き務めることとなった。

【市民自治推進委員会の基本方針等について】

・令和２年８月１９日（水）に開催された正副部会長会議で話し合われた「登別市総合計画第３期基本計画について」、「登別市の財政状況の把握とそれを踏まえたまちづくりへの取り組みについて」、「新型コロナウイルス感染症について」の情報共有を行った。

・今後の進め方について話し合う上での前提として、平成２８年度に市民自治推進委員会が立ち上がる際にも話が出たとおり、市民自治推進委員会は市に対するご意見番や市に対して物申す場所ではなくて、行政の取り組みで足りない部分を市民の力で何とかしようという組織。

・過去には市民自治推進委員会で市職員を呼んで市の事務事業の批評に終始し、委員会本来の取り組みが進展しなかったため活動が下火になったという経緯があった。今度はそうならないよう、自分たちでできることを探るのが望ましい。

・新型コロナウイルス感染症の感染収束までの市民の生活様式の推進について、部会員より次の意見が出された。

　○最近飲食店に来るお客さんはマスク着用を守らない方が多いが、入り口に注意を促す掲示をすると多くの方は着用するため、掲示による注意喚起は有効である。店内放送にも同様の効果があると見られる。

　○小売店のレジ担当の方が着用しているゴム手袋がウイルスを媒介するおそれがあるため、ゴム手袋の消毒の必要性を周知する必要がある。

　○適切な対策によって感染を広げないことは他者への気遣いに通じるので、道徳教育の中で感染防止対策を訴えるべきである。

　○市内店舗でコロナ対策済みであることを示す統一ステッカー等の掲示が考えられるが、実際に対策があまり行われていない店でステッカーが使用されると、逆に地域のイメージを損ねる恐れがある。

【今後の部会の取り組み内容の案等について】

・これまで部会の取り組みとして

①民泊事業者への情報提供

②市民ツアー

③市民に愛されるご当地家庭料理の開発

④登庖会の新メニュー試食会

の４事業を実施または検討してきたところ。

・多くの人が集まり感染のリスクが懸念される②及び④は実施が難しいことか

ら、これら２事業の検討は一旦保留とし、①及び③を新型コロナウイルス感染

症の流行下でもできる形で継続実施・検討することとする。

・新たな事業案として、⑤市内店舗・事業所等のコロナ対策事例紹介が出た。市内の店舗・事業所等における新型コロナウイルスの感染防止への取り組みを広く周知することで、以前のように市民が安全・安心して市内の店舗等を利用するきっかけづくりとして、さらには市民にも「新北海道スタイル」の遵守を呼び掛け、市民の力で経済活動や市民生活が少しでも活気を取り戻すよう取り組むもの。周知方法としては、動画の作成・配信が考えられる。

・同じく⑥市民農園での特色ある野菜の栽培の案が出た。登別ならではの野菜を育て、新たな名物とするもの。

【今後の部会の進め方について】

・新型コロナウイルス感染症が収束しない中、無理して会議を開き事業を行う必要があるかどうか、庁内委員から疑問が呈されたため、コロナ禍でもできる、コロナ禍だからこそ行うべき取り組みについても検討する。

●日程：未定（１１月頃）